

佐賀県内の被顕彰者(敬称略)

- 建設マスター
 - 【建設機械運転工】
 - ▽市原隆(㈱エイ・ティ・ジー)
 - 【法面工】
 - ▽下平正徳(日本建設技術㈱)
 - 【コンクリート工】
 - ▽竹尾哲也(笠原建設㈱)
 - 【土工】
 - ▽田中義久(㈱土井組)
 - ▽古館綱司(唐津土工建業㈱)
 - ▽三塩伸也(㈱山儀建設)
- 建設ジュニアマスター
 - 【法面工】
 - ▽広津大治(日本建設技術㈱)
 - 【建具工】
 - ▽古館優友(古館工業)



建設マスターに石井国土交通大臣が顕彰状を手渡した

国土交通省は5日、2018年度の優秀施工者国土交通大臣顕彰者(建設マスター)と

国土省が式典

ものづくりの名人に榮譽

建設マスター、ジュニアマスターを顕彰

青年優秀施工者土地・建設産業界局長顕彰(建設ジュニアマスター)に対する顕彰式典を東京都港区のメルパルクホールで開いた。建設マスター422人を代表し、大工の宮下重弘さん(西山組)が、石井啓一国土交通相から顕彰状を受け取った。また、建設ジュニアマスター101人の代表

である屋根工の小島正さん(小島瓦店)に、野村正史土地・建設産業界局長が顕彰状を手渡した。あいさつに立った石井国土交相は、「長年にわたつてものづくりの第一線に立ち、後進の育成にも積極的に取り組まれた。ものづくり、人づくりの名人と称されるにふさわしい」と建設マスターをたたえた。また、建設ジュニアマスターの今後のさらなる活躍に期待を示すとともに、「これまでに支えてきた家族の皆さんにも敬意を表す

また、建設ジュニアマスターを代表して板金工の唐島盛一さん(唐島板金工業所)が「建設マスターの諸先輩を目指し、技術技能の向上にさらにはげむとともに、施工効率の向上と安全確保に注力

風力発電2件の

計画段階配慮書を確認

県環境影響評価審査会



審査会の様子

佐賀県環境影響評価審査会(会長・穴井謙福岡大学工学部教授、委員15人)は5日、佐賀市の佐賀県自治会館で第52回会合を開いた。西九州風力発電㈱(唐津市、久原研代表取締役)が計画を進め

る(仮称)加部島風力発電事業」と(仮称)向島洋上風力発電事業」の2件の計画段階環境配慮書について確認し、意見を交わした。同審査会は知事の諮問機関で、事業者が実施する環境影響評価の技術的項目などについて調査・審議する組織。計画段階配慮書の手続きでは、事業計画の検討段階(事業の位置、規模や施設の配置、構造など)で事業地域の生活

環境や自然環境に及ぼす影響について、地域住民、専門家、地方公共団体などから意見を聞く。

「(仮称)加部島風力発電事業」の実施想定区域は唐津市呼子町加部島で、総発電出力は7500キロワット未満。風力発電施設は最大3基設置する予定で、定格運転時の出力は最大4000キロワットを想定。ブレード枚数3枚、ブレード回転直径最大120メートル、ブレード中心高さ最大115メートル、施設全体の高さは最大175メートルとなる。

鳥栖市空家等対策協議会は5日、2018年度第2回会合を同市

置する向島沿岸を想定実施区域としている。総発電出力は7500キロワット未満。風力発電施設は出力1870〜3740キロワットのを、2〜4基設置する予定。基礎工事については検討中だが、代表的な工法には▽重力式▽モノパイル式▽ジャケット式がある。

管理と活用啓発の市内全戸へパ

鳥栖市空

市内全戸へパ

管理と活用啓発の

はす